

平成24年行政事業レビューシート

(農林水産省)

事業名	鯨類捕獲調査安定化推進対策（復興関連事業）		担当部局	水産庁	作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度		担当課室	資源管理部国際課	国際課長 漆原 勝彦		
会計区分	一般会計		施策名	⑮水産資源の回復			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)			関係する計画、 通知等	〔復興基本方針〕 マスタープラン			
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)	調査捕鯨に対する反捕鯨団体の妨害により、平成22年度の調査を早期に切り上げざるを得なかった中で、平成23年度調査捕鯨を安定的に実施するための措置を講じ、これを通じて鯨関連産業が地域の主要産業となっている東日本大震災の被災地の復興を図る。						
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	平成22年度の南極海鯨類捕獲調査の調査副産物収入が大きく落ち込んだことに対応した支援措置を講ずるとともに、反捕鯨団体の妨害活動に対する安全対策を強化する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求
		補正予算	—	—	2,284		
		繰越し等	—	—	0		
		計	—	—	2,284		
	執行額	—	—	2,192			
	執行率(%)	—	—	96.0%			
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (23年度)
	南極海鯨類捕獲調査計画捕獲頭数 900頭(クミンク850頭、ナガス50頭)		成果実績 頭	—	—	267	900
		達成度	%	—	—	29.7%	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	活動日数 南極海調査監視:119日		活動実績 (当初見込み) 日			119	—
				()	(119)	()	
単位当たり コスト	17.4(百万円/日)		算出根拠	2,070百万円÷119日=17.4百万円			
平成 24 ・ 25 年度 予算 内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	計						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	<p>○交付先の特定理由</p> <p>・補助金： 鯨類捕獲調査事業は、商業捕鯨再開のため、鯨類資源の科学的データの収集・蓄積を目的に実施されている調査であり、昭和62年に公益性を確保する観点から(財)日本鯨類研究所を設立し、以来同法人が実施してきた。本事業は、平成22年度の南極海鯨類捕獲調査の調査副産物収入が大きく落ち込んだことに対応した支援措置を講ずるするものであることから、当該法人に交付する必要がある。</p> <p>・船舶借料： 妨害対策に万全を期すため、機密性を確保する必要があったため、随意契約(秘密)とする必要がある。</p>
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	<p>調査船団に対し、妨害活動は繰り返し行われたものの、捕獲調査そのものが、直接の妨害を受けることはなく、計画どおりの日程で調査は実施された。しかしながら、妨害船の回避に数日間費やしたことで、捕獲頭数は計画頭数を大幅に下回った。</p>
	△	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	△	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>平成23年度の南極海鯨類捕獲調査においては、水産庁監視船が効果的に妨害船を監視することができたことから、捕獲調査そのものが、直接の妨害を受けることはなく、計画どおりの日程で調査は実施された。しかしながら、妨害船の回避に数日間費やしたことで、捕獲頭数は計画頭数を大幅に下回った。</p> <p>24年度の南極海鯨類捕獲調査では、反捕鯨団体の妨害がさらに激しくなることが見込まれることから、引き続き対策を強化する必要がある。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
<p>上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)</p>			
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー		平成23年行政事業レビュー	

※平成23年度実績を記入

農林水産省
1,800百万円



【団体特定】

A. (財)日本鯨類研究所
1,800百万円

〔南極海鯨類捕獲調査を安定的に実施〕

農林水産省
270百万円



【団体特定】

B. 共同船舶株式会社
270百万円

〔反捕鯨団体の妨害活動に対する安全対策強化のための用船料〕

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.日本鯨類研究所			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
調査活動費	南極海調査の実施活動費	1,800			
計		1,800	計		0
B.共同船舶株式会社			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
用船料	妨害予防のための多目的船の用船料	270			
計		270	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)日本鯨類研究所	南極海における鯨類資源調査	1,800	1	—

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	共同船舶株式会社	南極海における鯨類資源調査	270	1	—